

気仙光陵支援学校

「児童生徒が「できた」「わかった」と感じられる授業づくり」 ～学習の振り返りの充実～

(2年次研究1年目)

1 全体研究

(1) 主題設定の理由

岩手県が掲げている「いわての授業づくり3つの視点」(視点1:学習の見通し)(視点2:学習課題を解決するための学習活動)(視点3:学習の振り返り)の中から、本校では日々の授業づくりをする上で省略しがちな(視点3:学習の振り返り)に焦点を当てて研究することとした。

教師の一方的な目標設定ではなく、児童生徒自身が分かって活動できる目標を設定し、その上で充実した振り返りを行う。そうすることによって児童生徒は「できた」「わかった」という達成感を感じられ、次の学習への意欲につながるのではないかと考え、研究テーマを設定した。

(2) 研究の目的

児童生徒自身が分かって活動できる目標設定と、それに基づく「学習の振り返り」を検討、実践することにより、児童生徒が「できた」「わかった」と感じ、次への目標につながる授業づくりをする。

(3) 研究内容

- ①授業における児童生徒自身の目標と教師の目標の共有を図る。
- ②授業の目標の設定・提示の仕方とそれに基づく学習の振り返りの方法を検討する。
- ③実践をとおして、PDCAサイクルによる授業改善・支援方法の充実を図る。

(4) 今年度の実践

- ①研究テーマの設定
- ②各学部・寄宿舎ごとの研究
- ③授業研究会の実施
(開かれた授業研究会との併催)
 - ・第1回:小学部 生活単元学習
 - ・第2回:高等部 生活単元学習
 - ・第3回:中学部 作業学習助言 学校教育室 指導主事
熊谷 佳展 氏

④研究のまとめ

(1) 小学部

生活単元学習の行事単位における事後学習の方法や形式について、対象児童を抽出し、学習内容や目標設定、支援の有効性を検討しながら、その成果や課題をまとめた。児童の「できた」「わかった」の姿につながる事後学習の方法や形式の構築を図った。

(2) 中学部

作業学習を研究対象とした。生徒が目標を理解して作業に臨み、達成できたと感じられるような授業を目指して授業改善に取り組んだ。日誌の様式や目標確認、振り返りの方法などを各作業班で検討し、実践しながら、生徒の変容や成果と課題をまとめた。

(3) 高等部

各学年から出された、一人の生徒を対象とした事例や高等部学校設定教科「産業社会と人間」、「生活単元学習」の授業実践の事例を基に事例検討会に取り組み、指導内容、目標設定、教材教具の工夫、支援の在り方、生徒の様子などについて学部全体で検討した。事例検討会をとおして、振り返り学習の在り方について検討し、「産業社会と人間」の学習教材を共有するとともに、産業等現場実習の実習日誌の様式や振り返り学習の在り方についても検討した。

(4) 寄宿舎

昨年度までの研究内容であった「生徒の主体性を引き出すこと」を生かし、各棟の実情に応じて寄宿舎生それぞれが行事の企画運営に携わり、達成感を得られるような実践に取り組んだ。生徒が作る行事の計画書の様式や行事後の振り返り方について検討し、生徒の変容や成果と課題をまとめた。

3 講演会

演題:「子どもの発達障がいと愛着障がい」

講師:みちのく療育園メディカルセンター

副施設長 川村 みや子 氏

期日:令和5年7月28日(金)

参加者:56名

4 刊行物 研究収録は刊行していません。